

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成22年度～平成26年度																				
事業実施地区名 （都道府県名）	（あぶくまがわ） 阿武隈川森林計画区 （福島県）	事業実施主体	関東森林管理局 福島森林管理署																				
事業の概要・目的	<p>当事業は、福島県中央部に位置する阿武隈川森林計画区92,188haの内58,072haの国有林野を対象としている。</p> <p>当計画区の森林で重視すべき3機能区分は、水土保持林44,365ha（76%）、森林と人との共生林10,950ha（19%）、資源の循環利用林2,757ha（5%）となっている。</p> <p>当地域は、福島県の中央部に位置し、いわゆる中通りと呼ばれる地域であり、茂庭地区等の奥地は自然度の高い天然生林が広域に生育していることから、自然環境の維持、保全が求められており、都市近郊に位置する森林については、森林とふれあえる場の提供が期待されている。また、上流域の森林は、中通り各都市部生活用水を始め、工業・農業用水の水源地として重要な役割を果たしている。森林は、太平洋側植生域から日本海側植生域へ移行する地域まで広範な森林形態を有している。</p> <p>人工林の生育状況は全般的に良好である。人工林のうち、気象、土壌等の自然条件が厳しいため一部に生育不良な林分も見られるが、このような良質な木材の生産が困難な林分についても水源かん養機能の維持、向上のため健全な森林状態に誘導することが求められている。</p> <p>当計画区の森林に対する国民の要請は、木材等の林産物の供給、水源のかん養、山地災害の防止等の機能の発揮に加えて、保健・文化・教育的な利用の場の提供、良好な生活環境の保全等の機能の発揮や、地球温暖化の防止や生物多様性の保全等への寄与等、森林の持つ多面的機能への期待が高まっており、高度化・多様化してきている。</p> <p>このような国民の期待の高まりに応え、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を確保していくため、森林の重視すべき機能の区分に応じ、必要な更新を行うとともに、間伐等の森林整備事業を実施することにより、下層植生の育成を促す等、水源かん養機能を高める。林業と野生生物の保護との両立に配慮し生物多様性の保全を図る。木材資源の質的向上と水土保持機能を高め林産物の供給や多様な森林資源の整備に資する。二酸化炭素の吸収源、貯蔵庫として地球温暖化の防止等の効果を高めるものである。また、これらを実施するため、併せて森林施業の効率的な実施に必要な路網について整備を行うものである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">主な事業内容</td> <td style="width: 20%;">森林整備</td> <td style="width: 20%;">更新面積</td> <td style="width: 30%;">117 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>保育面積</td> <td>4,459 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>19.4 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.8 km</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>2,201,916 千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			主な事業内容	森林整備	更新面積	117 ha			保育面積	4,459 ha		路網整備	開設延長	19.4 km			改良延長	0.8 km	総事業費	2,201,916 千円		
主な事業内容	森林整備	更新面積	117 ha																				
		保育面積	4,459 ha																				
	路網整備	開設延長	19.4 km																				
		改良延長	0.8 km																				
総事業費	2,201,916 千円																						
費用対効果分析	総 便 益（B）	15,708,570 千円																					
	総 費 用（C）	2,649,083 千円																					
	分析結果（B / C）	5.93																					
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 地球温暖化防止対策や国土保全、水源かん養及び保健休養等の公益的機能の発揮や木材の安定供給が求められている地域であり、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 費用対効果分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、地域の特性を踏まえた計画的な森林整備により、森林の有する機能の発揮が十分図られることから、事業の有効性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源かん養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>																						

便 益 集 計 表

事業名: 森林環境保全整備事業

事業実施主体: 関東森林管理局

事業実施地区名: 阿武隈川森林計画区(福島県)

福島森林管理署

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	2,977,303	
	流域貯水便益	908,431	
	水質浄化便益	1,281,336	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,378,244	
環境保全便益	炭素固定便益	1,318,367	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	926,983	
	木材利用増進便益	4,666	
	木材生産確保・増進便益	4,552,488	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	201,752	
	森林管理等経費縮減便益	7,755	
	森林整備促進便益	151,160	
維持管理費縮減便益		85	
総便益(B)		15,708,570	
総費用(C)		2,649,083	
費用便益比		5.93	